

富田林市の 小中一貫教育

小・中学校が、めざす子ども像(こんな子どもに育ってほしいという学校の願い)を共有して9年間を見通したカリキュラムを編成し、系統的な教育をめざすのが小中一貫教育です。

本市教育委員会では市施政方針に基づき、小中一貫教育を実現するための研究・実践を進めています。



なぜ今、小中一貫教育なの？



本市ではこれまで、小・中学校の教職員の情報交換や交流を通じて、小学校から中学校への滑らかな接続をめざし、子どもたちへのきめ細かな支援を図ってきました。

小学校と中学校の間には、教育内容や教員の指導方法の段差が生まれがちです。また、子どもたちの心の内面が大きく変化する時期に重なります。

「中1ギャップ」とも呼ばれる、この学習や生活上の段差を軽減し、確かな学力をはじめ、これからの時代に求められる資質・能力を育成することをめざして、市内すべての学校において小中一貫教育の研究・実践に取り組んでいます。



どんな取組みを進めているの？



令和3年度より、小金台小学校・明治池中学校をパイロット校と位置づけて、次のような取組みを先導的に進めています。



まず、小・中学校でめざす子ども像を共有しました。そして、9年間で育てたい力を明らかにしてカリキュラムをつくっています

子どもたちの学習のつますきを小・中学校の教職員で共有し、指導の改善に活かしています

小1から中3まで一貫して取り組む「未来科」を創設しました

小学校高学年から教科担任制を取り入れて、より専門的でわかりやすい授業をめざしています

小・中学校で生徒指導の考え方を共有し、新しい学校生活ルールづくりを進めます

障がい理解や支援観の共有により、支援教育を充実します

より系統的な教育を実現するため、4・3・2制の研究を進めています

このような取組みを通じて、

- ▶ 確かな学力の育成
- ▶ 多様で幅広い人間関係の中で、責任感や自己有用感の育成
- ▶ 安全で安心な進学による不登校の減少

など、未来を生き抜く力の育成をめざしています

今後、市内全中学校区で小中一貫教育の取組みを進めていきます！



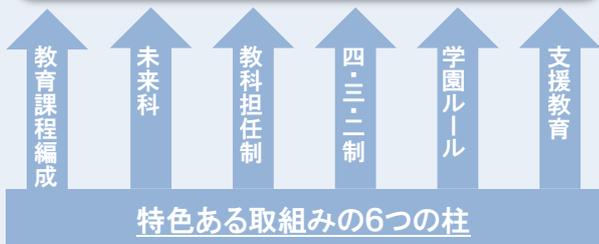
明治池中学校区の取組み



小金台小学校と明治池中学校の小中一貫教育では、こんなことをめざしています

9年間を見通した教育ビジョン

めざす子ども像
〈今と未来、社会で生きる自分らしさを〉
 ～挑戦～ ～継続～ ～共生～



- ▶ これからの時代に求められる資質・能力を育む教育の実践
- ▶ 未来科を中心としたキャリア教育の実践
- ▶ 自尊感情の醸成と自己有用感の育成をめざした教育の実践

期待する5つの成果



子どもたちにとってより良い小中一貫教育へ

- ▶ 段差のない連続した学びによる学力向上
- ▶ 中1ギャップの軽減と不登校の未然防止
- ▶ 未来に希望を持ち、主体的に社会を生き抜いていく力の育成
- ▶ 人権・支援教育を通じて、誰もが安心して学べる環境づくり



令和3年度に小中一貫校開校に向けて取り組んだことを紹介します！

1 1年生から9年生まで、系統的に育てていく「**つけたい力**」を明らかにしました

9年間の構造図		前期 (小1～小4)	中期 (小5～中1)	後期 (中2～中3)
とりいれる力	きく			
	よむ			
カタチにする力	みとおす	わくわく	じっくり	ひろく
	えらぶ			
	くみだてる	わかる	なぜを	ぶかく
	しあげる			
つたえあう力	はなす	できる	つかむ	えがく
	かく			
今を生きる力	みつめる			
	つなげる			



2 「生き方」を追究する新しいカリキュラム、**〈未来科〉**の創造に取り組んでいます



3 「めざす子ども像」を実現するため、**9年間のカリキュラム**を作成しました

- ▶ 小・中学校の教職員全員が主要な5つのタスクに分かれ、タスク会議において検討し、作成しています

①教務

学園会議体制の検討。学園年間計画作成など

②学力向上

学力向上ランドデザイン作成。研修計画作成など

③未来科

④生徒指導

基本方針・目標の検討。
学園ルールの作成など

⑤児童生徒会



4 児童生徒会の取組み
小中サミット〈学園名決定に向けて〉

- ▶ 児童会・生徒会が中心となり、保護者、教職員の小中一貫校への思いを受け、子どもたちの主体的な活動を通して学園名を考えました



各中学校区の取組み

第一中学校区



20歳の子どもの姿を想像して

- 一中校区の幼小中の5校園で、〈12カ年プロジェクト〉を進めています。各校園の人権担当で毎月交流し、交流会や総会を計画しています。また、部ごとに年数回の活動を実施し、成果を冊子にまとめ配付しています。今年度は卒業生の保護者から、保護者としての思いや部落問題についてお話をさせていただきました。

また、年2回実施したグループ交流では、「今の子どもたちに12カ年を通して将来どんな姿になってほしいのか、どんな力をつけたいのか」「前回の交流を通して、2学期に子どもとどんな関わりができたのか、意識したのか」について交流しました。校区の子どもの20歳の姿を想像して、幼稚園の段階から共通の思いで関わっていると実感できました。



第二中学校区



ICTを活用して情報共有

- オンライン上のファイル保管サービス〈Googleドライブ〉を活用して、小・中学校の間での情報共有を進めています。たとえば、スクールカウンセリングの予約や確認は、これまでは中学校を窓口として電話で受け付けていました。〈Googleドライブ〉を利用することで、校区内の各小学校から直接予約でき、速やかに情報共有ができるようになりました。
- 校区の小・中学校で生徒指導の交流会を月1回行い、協働して児童生徒への早期支援を図っています。小・中学校の教職員が共同で家庭訪問を行うなど、個に応じた効果的な対応を行っています。

月日	1. 11:50~12:40(4時限目)	2. 13:00~13:20(昼休み)	3. 13:30~14:10
9/30(木)			
10/7(木)	二中		
10/21(木)			
10/28(木)			
11/4(木)	小		
11/11(木)		二中	
※45分授業 11/18(木)	(11:35~12:20)		(13:25~14:10)
12/2(木)	小		
12/9(木)			
12/16(木)			
12/23(木)			

第三中学校区



ICTで交流推進

- 三中校区ではICT教育推進のため何ができるかを考え、まずは教員による知識理解を深めることから始めました。そして、児童生徒による活用をめざして以下の取組みを進めています。
 - ・オンラインで情報を共有できるフォルダを作成し、小・中学校が情報交換できるシステムを構築しました。中学校の校則などを共有し、小・中学校がかんたんに確認できる環境が整いました。
 - ・入学前に、ICT機器を活用して入学説明会で体験授業を行ったり、中学校の教員が出前授業を行って中学校の一日を紹介したりして、中1ギャップの改善に努めています。



金剛中学校区



中学生があこがれのモデルに

- リモートで小・中学生をつなぐことができないかと考えて、中学生が英語で「誰でしょう？」クイズを出題し、小学生が答えるという授業を行いました。

出題者の中学生がクイズ上の人物になり切り、小学生は既習表現を使って質問をしました。発表者以外にも発言や質問ができるように工夫しました。

昨年まで小学校にいた先輩がより英語が使えるようになってのを見て、小学生は「中学生になったら、同じことをしたい!」「中学生みたいに話せるようになりたい!」と、英語や中学校への期待感が高まりました。中学生も意欲的に英語で話そうと取り組みました。



各中学校区の主な取組み

葛城中学校区



校区の「育てたい子ども像」を共有する

- 葛城中校区で共有する「育てたい子ども像」を見出すために、校区内の学校園の教職員の意識を把握するアンケートを行い、共有しました。互いの考えを知ることができ、校区の「育てたい子ども像」を見出すためのきっかけとなりました。
- 小・中学校で協働する学力向上の取組みとして、中学校の定期テストの時期に合わせて小学校でも自主学習などに積極的に取り組む〈家庭学習ウィーク〉を設定しています。また、小・中学生の〈自主学習ノート〉を互いの校内に掲示し合っています。取組みを継続することで、子どもたちの学習意欲の向上につながっています。



喜志中学校区



校門でのあいさつ運動を ー小中教職員の相互乗り入れー

- 喜志中校区は、2つの小学校から中学校区が分かれることなく進学できる環境にあります。

登校時の校門での〈あいさつ運動〉は、自己肯定感や自己有用感を高める取組みの一つです。小・中学校の教職員がこの〈あいさつ運動〉に相互に乗り入れることで、校区全体で子どもを見守りながら、子どもの9年間の成長を教職員同士が共有できる土壌づくりを始めました。誰が行っても違和感がないようにすること、それが一番の目的です。

小学生が中学校の先生を知ることで、中一ギャップ解消への効果が期待できます。また、中学生も小学校の先生に会えることを喜んでいます。



藤陽中学校区



守ろう授業の三か条

- 藤陽中校区では、小学生が中学校へ、中学生が小学校へ行って行う〈小中合同あいさつ運動〉に取り組んできましたが、さらに3校で共通して取り組める内容を考えました。

小・中学校の授業規律の統一をめざして教職員同士で話し合い、3つの合い言葉を決めました。

守ろう授業の三か条

- 一. 時間通りにスタート（授業準備してから休み時間）
- 二. あいさつをきっちりする（イスはしっかりと中に入れる）
- 三. 提出物は期限内にしっかりと出す

取組みを進める中で、良い習慣が確実に身につけてきています。



今後の方向について

- 令和4年4月を目途として、小金台小学校・明治池中学校を小中一貫校(施設分離型)のモデル校として設定し、令和3年度中に検討したカリキュラム等の実践に取り組めます。また、研究実践による成果や課題について、市内教職員を対象に報告を行う予定です。
- 明治池中学校区以外の校区において、同校区の取組みを活かして小中一貫教育の取組みを推進していきます。

富田林市の小中一貫教育 リーフレット



富田林市教育委員会事務局教育指導室

〒584 8511 大阪府富田林市常盤町 1-1

TEL 0721-25-1000(代表) FAX 0721-26-2300

令和4年3月 発行